

【3日目 / 5月24日】

今回の旅行では、八重山地方(石垣島、西表島、与那国島など)はすでに梅雨入りしていました。しかし、関東地方の梅雨のように、一日中シトシト降り続くような感じではなく、短時間にドバーっと降って、うそのように止むという繰り返しでした。



旅行中、雨に降られて困ったことはなく、傘も結局一回も使いませんでした。3日目も朝から晴れていました。今日は大きな「仕事」が二つあります。一つ目は「日帰りで与那国島に行くこと」、二つ目は「南十字星を撮影できるラストチャンス之夜である」ことです。一番晴れてほしかったのがこの三日目でした。



石垣島は北緯 24° 付近に位置し、地理的には(正確には天文学的には)南十字星の全貌を観望できる位置にあります。しかし、地平高度は 10° 以下と低く、遠くの水平線上に雲があるだけで観望はNGになります。短期間しか滞在しない旅行者が南十字星に出会うチャンスはほとんど0と言っても良いでしょう。

この日の夜は旅行中最後のチャンスなので、早朝にもう一度ロケハンに行ってきました。場所はホテルから車で5分ほどの海岸です。駐車スペースも確認しておきました。



ここは天然の海岸では石垣島で最南端に位置します。真南には離島もなく、水平線しか見えません。石垣市の市街地からもやや離れているので、ロケーション的には最高の場所です。



あとは、三脚を立てる場所です。砂浜では安定しないのですが、どういうわけか南側を向いたコンクリートの台座があります。設置場所もバッチリです!



それにしても、石垣島に住んでいる方々は、市街地から10分ほどでこんなに静かで美しい海岸に来られるとは、何と幸せなことだろうと思いました。今夜晴れば、ここで南十字星を撮影すると決めました。



この石垣島最南端の海岸にも、硫黄島から流れ着いて「黒い軽石」が落ちていました。福岡ノ場の白い軽石は、サンゴや石英との見分けが難しいのですが、黒い軽石は簡単に見つかります。



海岸から空港に直行しました。駐車場が満車になることがあるので、少し早めに着いたほうが良いと思ったからです。大都市の空港とちがって、ターミナルの目の前に駐車場があって、料金も安い旅行者にはとても助かります。



新石垣空港は、離島の空港にしては発着本数が非常に多い空港です。東京、大阪、那覇からの便に加えて、八重山列島の離島を往復する旅客機もあるからです。しかし滑走路は1本(22番/04番の2方位)しかなく、やや過密ダイヤになっています。与那国便も一日に三便もあります。



石垣～与那国便の航空券は、日航のホームページから申し込みましたが、実際に運行している航空会社は「RAC琉球エアコンピューター」です。RACは那覇を拠点に、沖縄諸島の離島便を一気に引き受けてくれる頼もしい航空会社です。表示の「さい」というのは、「待合室にお入りください。」の「さい。」です



私の航空券は「チケットレス」なので、スマホでバーコードを見せるだけで乗れます。基本的に搭乗券もなく、荷物検査が済むとこのような座席番号等が印字された「レシート」をくれます。検査員の方が「レシート、オッケーで～す！」と必ず言います。



新石垣空港にも旅客機に直接搭乗できるエプロンがありますが、旅客定員の少ない離島便の場合、搭乗客は直接歩いて飛行機まで行きます。北極圏の空港を思い出しました。